後期実施計画（令和３年度～令和７年度）　施策評価シート

１．基本情報

基本目標	2	学び合い、志を育むまちづくり	担当部	教育委員会
基本施策	1	「志」の教育　信頼される学校教育の確立		
単位施策名称	1	志を持ち未来へ挑戦する児童生徒の育成		
施策の方向性	●社会の中で自己実現するために、自分を大切にし、夢や志を持って挑戦し、学び続ける力を持つ児童生徒を育成します。 ●「志」の実現に必要な資質・能力を育成するため、主体的・対話的で深い学びを推進し、確かな学力を育成します。また、学校図書館の充実による、児童生徒の自主的・主体的な学習を推進します。 ●「あいさつ」「感謝」をベースに思いやりの心や感動する心等を育成するとともに、自らの身体を知り、課題の解決に取り組もうとする意欲・実践力を養い、豊かな心とたくましい身体を育成します。 ●国際化に対応した教育を推進し、外国語によるコミュニケーション能力の向上・定着を図るとともに、広い視野を持ち他者と協働する能力を持ったグローバルな社会に挑戦する児童生徒を育成します。 ●情報化に対応した教育を推進し、ICT（情報通信技術）の効果的な活用によって、授業の質の向上を図り、学びの多様化により、主体的・協働的に学ぶ児童生徒を育成します。		

２．施策目標（施策指標）

No.	目標指標	単位	区分	計画策定時の状況	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
1	全国学力・学習状況調査の教科に関する調査の結果（小学校） ※県平均を上回るポイント数	ポイント	目標値		5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
			実績値	5.0	5.5	4.0	3.5	4.0	3.5
			達成状況		達成	未達成	未達成	未達成	未達成
2	全国学力・学習状況調査の教科に関する調査の結果（中学校） ※県平均を上回るポイント数	ポイント	目標値		3.0	3.0	3.0	3.0	3.0
			実績値	3.3	2.0	1.5	3.0	1.5	1.5
			達成状況		未達成	未達成	達成	未達成	未達成
3	「将来の夢や目標はかなうと思う」と答える児童生徒の割合（小学校）	%	目標値		83.0	83.5	84.0	84.5	85.0
			実績値	82.2	80.5	82	83.3	85.4	85.1
			達成状況		未達成	未達成	未達成	達成	達成
4	「将来の夢や目標はかなうと思う」と答える児童生徒の割合（中学校）	%	目標値		72.0	72.0	72.0	72.0	72.0
			実績値	69.2	67.3	72.1	69.4	72.8	75.9
			達成状況		未達成	達成	未達成	達成	達成
5	全国学力・学習状況調査の正答率30%未満の児童生徒の割合（小学校）	%	目標値		4.0以下	3.0以下	2.0以下	2.0以下	2.0以下
			実績値	5.4	4.1	7.0	6.3	6.9	7.1
			達成状況		未達成	未達成	未達成	未達成	未達成
6	全国学力・学習状況調査の正答率30%未満の児童生徒の割合（中学校）	%	目標値		7.0以下	6.0以下	5.0以下	4.0以下	4.0以下
			実績値	8.0	7.3	19.8	24.2	14.1	21.7
			達成状況		未達成	未達成	未達成	未達成	未達成

３．評価と対応方針（各部評価）

・分析

（施策目標達成・未達成の要因、前年度評価を踏まえた見直し状況、新たに発生した課題・環境変化等）

R3	全国学力・学習状況調査の教科に関する調査（小学生）の目標は達成できたものの、それ以外の目標は達成できませんでした。 コロナ禍のため学校行事は中止や縮小となりましたが、令和3年度から本格的にICT機器等の利用を開始し、教職員のスキルアップと授業改善を行いました。
R4	NO.4以外の目標は達成できませんでした。 新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、授業における話し合いや表現の場においてICT機器を活用した研究授業を実施するとともに、教職員のスキルアップと授業改善などを行い、学力向上へ向けた取組みを行いましたが、更なる工夫が必要と考えます。
R5	6項目のうち1項目しか達成できていないうえ、昨年度対比で良化した数値もあれば悪化した数値もあり、不安定な状況となっています。しかし、教育に係る指標は毎年度対象者が異なることから、建設事業等のようにー旦進捗した数値が後退しないという特性を持ち合わせておらず、未達成要因を特定することは難しいと思われます。
R6	6項目中2項目の達成となりましたが、すべての項目で県平均を上回っています。 継続的な児童生徒会議の開催や各学校における系統的なキャリア教育等の実施を通じて、夢や志を持って挑戦することができる児童生徒の育成を図りました。また、学力向上に係る協議会や各学校における学力向上に係る研修会等の開催を通じて、各学校の実態に応じた授業改善を進めました。
R7	6項目中2項目の達成となりましたが、すべての項目で県平均を上回っています。 継続的な児童生徒会議の開催や各学校における系統的なキャリア教育等の実施等を通じて、夢や志を持って挑戦することができる児童生徒の育成を図りました。また、学力向上に係る協議会や各学校における学力向上に係る研修会等の開催方法の改善等を通じて、各学校の実態に応じた授業改善を進めました。

・評価及び対応方針

R3	今後も、夢や志をもって主体的に挑戦する児童生徒を育成するため、継続的に教職員のICT機器等の活用スキルアップと授業改善に努めていきます。
R4	
R5	本単位施策は「志を持ち未来へ挑戦する児童生徒の育成」ですが、未達成項目が多いことから、当該施策が実現に至っていないとは考えていません。 施策の方向性を更に推し進めるため、各事務事業を継続します。
R6	主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善のための、一人1台端末の更なる活用に係る取組が必要であると捉えています。
R7	主体的・対話的で深い学びに向けた「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る授業改善のために、指導力向上のための研修の継続と一人1台端末の更なる活用に係る研修の充実が必要であると捉えています。

【参考】施策の推進に要したコスト（事務事業）　　（単位：千円）

No.	事業名称	R3	R4	R5	R6	R7	計
1	小中連携教育充実事業	324	302	286	337	418	1,667
2	体験活動推進事業	475	511	576	525	513	2,600
3	志を育てる教育事業	324	481	558	918	625	2,906
4	グローバル教育事業	14,430	14,454	14,208	15,845	17,011	75,948
5	学校図書館教育充実事業	12,922	12,938	13,368	15,323	16,310	70,861
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
合計		28,475	28,686	28,996	32,948	34,877	153,982

後期実施計画（令和３年度～令和７年度）　事務事業評価シート

１．基本情報

総合戦略	

事務事業の名称	小中連携教育充実事業	事業番号	211101
担当部署名	教育委員会　　学校教育課		
政策体系			
基本目標	2 学び合い、志を育むまちづくり		
基本施策	1 「志」の教育　信頼される学校教育の確立		
単位施策	1 志を持ち未来へ挑戦する児童生徒の育成		

２．活動実績

年度	活動実績
R3	○ 児童生徒の「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育成するため、各校において小・中学校の教職員が、義務教育9年間における児童生徒の発達の段階に応じた教育課程を理解し、令和3年度から整備された一人1台端末等ICT機器も積極的に利用しながら授業改善を行いました。 ○ 毎月、各中学校区の生徒指導主事及び関係機関担当による生徒指導担当者会議を行い、小・中学校のスムーズな接続のために児童生徒に関する綿密な情報連携、生徒指導の取組みの確認を行いました。
R4	○ 児童生徒の「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育成するため、各校において小・中学校の教職員が、義務教育9年間における児童生徒の発達の段階に応じた教育課程を理解し、一人1台端末等ICT機器も積極的に利用しながら授業改善を行いました。 ○ 毎月、各中学校区の生徒指導主事及び関係機関担当による生徒指導担当者会議を行い、小・中学校のスムーズな接続のために児童生徒に関する綿密な情報連携、生徒指導の取組みの確認を行いました。
R5	○ 児童生徒の「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育成するため、各校において小中学校の教職員が、義務教育9年間における児童生徒の発達の段階に応じた教育課程を理解し、一人1台端末等ＩＣＴ機器も積極的に利用しながら授業改善を行いました。 ○ 毎月、各中学校区の生徒指導主事及び関係機関担当による生徒指導担当者会議を行い、小中学校のスムーズな接続のために児童生徒に関する綿密な情報連携、生徒指導の取組の確認を行いました。
R6	○ 児童生徒の「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育成するため、各校において小中学校の教職員が、義務教育9年間における児童生徒の発達の段階に応じた教育課程を理解し、一人1台端末等ＩＣＴ機器も積極的に利用しながら授業改善を行いました。 ○ 毎月、各中学校区の生徒指導主事及び関係機関担当による生徒指導担当者会議を行い、小中学校のスムーズな接続のために児童生徒に関する綿密な情報連携、生徒指導の取組の確認を行いました。
R7	○ 児童生徒の「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育成するため、各校において小中学校の教職員が、義務教育9年間における児童生徒の発達の段階に応じた教育課程を理解し、一人1台端末等ＩＣＴ機器も積極的に利用しながら授業改善を行いました。 ○ 毎月、各中学校区の生徒指導主事及び関係機関担当による生徒指導担当者会議を行い、小中学校のスムーズな接続のために児童生徒に関する綿密な情報連携、生徒指導の取組の確認を行いました。

３．事業目標（事業指標）

No.	指標名称	単位	区分	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
①	主体的に学ぶ児童の割合（小学校）	%	目標値	82.0	82.0	82.0	82.0	82.0
			実績値	84.1	88.5	83.9	82.0	80.5
			達成状況	達成	達成	達成	達成	未達成
②	主体的に学ぶ生徒の割合（中学校）	%	目標値	72.0	72.0	72.0	72.0	72.0
			実績値	73.6	65.6	71.3	66.5	71.9
			達成状況	達成	未達成	未達成	未達成	未達成
③			目標値					
			実績値					
			達成状況					
④			目標値					
			実績値					
			達成状況					
指標の設定方法		小中学校教職員が共同で実施する研究活動成果を生かし主体的な学びを促進するため、主体的に学ぶ児童生徒の割合を指標としました。						

４．コスト情報（決算）

（単位：千円）

区分	事業費合計	財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	地方債	その他	一般財源
R3	324	0	0	0	0	324
R4	302	0	0	0	0	302
R5	286	0	0	0	0	286
R6	337	0	0	0	0	337
R7	418	0	0	0	0	418
合計	1,667	0	0	0	0	1,667

５．評価と対応方針（各課評価）

・分析

（事業目標達成・未達成の要因、前年度評価を踏まえた見直し状況、新たに発生した課題・環境変化等）

R3	各校において、一人1台端末等のICT機器も積極的に利用しながら、義務教育9年間における児童生徒の発達の段階に応じた系統性を踏まえた教育課程を理解し、授業改善を進めました。 小・中学校のスムーズな接続のために、各学校の生徒指導主事及び関係機関担当が毎月生徒指導担当者会議を行い、児童生徒に関する綿密な情報連携、生徒指導の取組の確認を行いました。
R4	各校において、一人1台端末等のICT機器も積極的に利用しながら、義務教育9年間における児童生徒の発達の段階に応じた系統性を踏まえた教育課程を理解し、授業改善を進めました。今後も、小・中学校のスムーズな接続のために、各学校の生徒指導主事及び関係機関担当が毎月生徒指導担当者会議を行い、児童生徒に関する綿密な情報連携、生徒指導の取組みの確認を行いました。
R5	各学校において、一人１台端末等のＩＣＴ機器も積極的に利用しながら、義務教育9年間における児童生徒の発達の段階に応じて授業改善を進めました。小・中学校のスムーズな接続のために、各学校の生徒指導主事及び関係機関担当が毎月生徒指導担当者会議を行い、児童生徒に関する綿密な情報連携、生徒指導の取組の確認を行いました。
R6	各学校において、一人１台端末等のＩＣＴ機器も積極的に利用しながら、義務教育9年間における児童生徒の発達の段階に応じて授業改善を進めました。小・中学校のスムーズな接続のために、各学校の生徒指導主事及び関係機関担当が毎月生徒指導担当者会議を行い、児童生徒に関する綿密な情報連携、生徒指導の取組の確認を行いました。
R7	各学校において、一人１台端末等のＩＣＴ機器も積極的に利用しながら、義務教育9年間における児童生徒の発達の段階に応じて授業改善を進めました。小・中学校のスムーズな接続のために、各学校の生徒指導主事及び関係機関担当が毎月生徒指導担当者会議を行い、児童生徒に関する綿密な情報連携、生徒指導の取組の確認を行いました。

・評価及び対応方針

R3	今後も小・中学校教職員が共同で実施する研究活動成果を生かし主体的な学びを促進していきます。
R4	今後も小・中学校教職員が共同で実施する研究活動成果を生かし主体的な学びを促進していきます。
R5	今後も小・中学校教職員が共同で実施する研究活動成果を生かし主体的な学びを促進していきます。
R6	今後も小・中学校教職員が共同で実施する研究活動成果を生かし主体的な学びを促進していきます。
R7	今後も小・中学校教職員が共同で実施する研究活動成果等を生かし、児童生徒の発達段階に応じたつながりのある学びを推進し、確かな学力の育成を図ります。

６．評価と対応方針（各部評価）

・分析

（事業目標達成・未達成の要因、前年度評価を踏まえた見直し状況、新たに発生した課題・環境変化等）

R3	令和3年度から一人1台端末のICT機器等の活用が本格的に始まりました。 教職員はICT機器のメリットを最大限活かし、児童生徒の理解が深まるよう校内研修等を通して授業改善に努めてきた結果、小・中学校とも目標達成できました。
R4	小学校では事業目標を達成できましたが、中学校では未達成となりました。 教職員はICT機器のメリットを最大限活かし、児童生徒の理解が深まるよう校内研修等を通して授業改善に努めました。
R5	昨年度に引き続き、小学校は達成、中学校は未達成となりました。 活動実績のとおり地道な取り組みにより、未達成ながら中学校の実績値は昨年度対比５．７ポイント回復しています。
R6	昨年度に引き続き、小学校は達成、中学校は未達成となりました。 教職員はＩＣＴ機器のメリットを最大限活かし、児童生徒の理解が深まるよう校内研修等を通して授業改善に努めました。
R7	小学校、中学校ともに未達成となりましたが、県平均を上回っています。 ＩＣＴの効果的な活用に向けて、先進校の校長等を講師とした研修を行うとともに、指導主事が校内研修に参加し指導助言するなど授業改善に努めました。

・評価及び対応方針

R3	今後も、授業の質を高めるため小・中学校が連携し授業研究発表を実施するとともに、教職員はICT機器等の活用スキルアップと授業改善を継続的に実施していきます。
R4	今後も授業の質を高めるため、小・中学校が連携するとともに、教職員はICT機器等の活用スキルアップと授業改善を継続的に実施します。
R5	実績値には反映できていませんが、本事業は義務教育９年間を１サークルとして、小学校と中学校の教職員が連携しながら教育を充実させていこうとする事業であり、教育効果上有益な事業であると評価しています。
R6	今後も授業の質を高めるため、小・中学校が連携するとともに、教職員はＩＣＴ機器等の活用スキルアップと授業改善を継続的に実施します。
R7	今後も授業の質を高めるため、幼保・小・中学校が連携するとともに、教職員はＩＣＴ機器等の活用スキルアップと授業改善を継続的に実施します。

後期実施計画（令和３年度～令和７年度）　事務事業評価シート

１．基本情報

総合戦略	

事務事業の名称	体験活動推進事業	事業番号	211102
担当部署名	教育委員会　　学校教育課		
政策体系			
基本目標	2 学び合い、志を育むまちづくり		
基本施策	1 「志」の教育　信頼される学校教育の確立		
単位施策	1 志を持ち未来へ挑戦する児童生徒の育成		

２．活動実績

年度	活動実績
R3	○ 新型コロナウイルス感染症対策を徹底した上で、1泊2日の宿泊体験活動を実施しました。現地では、「新しい生活様式」の中でできることを各校で工夫し、実施しました。 ・府中小学校　県立もみのき森林公園 ・府中南小学校　国立江田島青少年交流の家 ・府中中央小学校　国立江田島青少年交流の家 ・府中東小学校　広島市青少年野外活動センター ・府中北小学校　広島市三滝少年自然の家
R4	○ 町内小学校5校の第5学年が、1泊2日の宿泊体験活動を実施しました。現地では、各校が「新しい生活様式」の中でできることを工夫し、実施しました。 ・府中小学校　県立もみのき森林公園 ・府中南小学校　国立江田島青少年交流の家 ・府中中央小学校　国立江田島青少年交流の家 ・府中東小学校　広島市三滝少年自然の家 ・府中北小学校　広島市三滝少年自然の家
R5	○ 第5学年において、1泊2日の宿泊体験活動を実施しました。 ・府中小学校　国立江田島青少年交流の家 ・府中南小学校　国立江田島青少年交流の家 ・府中中央小学校　国立江田島青少年交流の家 ・府中東小学校　広島市三滝少年自然の家 ・府中北小学校　広島市三滝少年自然の家
R6	○ 第5学年において、1泊2日の宿泊体験活動を実施しました。 ・府中小学校　国立江田島青少年交流の家 ・府中南小学校　国立江田島青少年交流の家 ・府中中央小学校　国立江田島青少年交流の家 ・府中東小学校　広島市三滝少年自然の家 ・府中北小学校　広島市三滝少年自然の家
R7	○ 第5学年において、1泊2日の宿泊体験活動を実施しました。 ・府中小学校　国立江田島青少年交流の家 ・府中南小学校　国立江田島青少年交流の家 ・府中中央小学校　国立江田島青少年交流の家 ・府中東小学校　広島市三滝少年自然の家 ・府中北小学校　広島市三滝少年自然の家

３．事業目標（事業指標）

No.	指標名称	単位	区分	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
①	自分にはよいところがあると思える児童の割合	%	目標値	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0
			実績値	85.8	86.1	87.8	89.6	87.6
			達成状況	達成	達成	達成	達成	達成
②			目標値					
			実績値					
			達成状況					
③			目標値					
			実績値					
			達成状況					
④			目標値					
			実績値					
			達成状況					
指標の設定方法	体験活動を通して豊かな心の育成や課題発見・解決学習能力の育成の成果として「自分にはよいところがある」と思える児童の割合を指標としました。							

４．コスト情報（決算）

（単位：千円）

区分	事業費合計	財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	地方債	その他	一般財源
R3	475	0	0	0	0	475
R4	511	0	0	0	0	511
R5	576	0	0	0	0	576
R6	525	0	0	0	0	525
R7	513	0	0	0	0	513
合計	2,600	0	0	0	0	2,600

5．評価と対応方針（各課評価）

・分析

（事業目標達成・未達成の要因、前年度評価を踏まえた見直し状況、新たに発生した課題・環境変化等）	
R3	「新しい生活様式」の中で、各校が活動内容を工夫して2年ぶりに宿泊を伴う体験活動ができました。今後もコロナ禍でも可能な形での体験活動を工夫して実施し、他者と協働しながら豊かな心の育成や課題発見・解決学習能力の育成を図っていきます。
R4	「自分にはよいところがある」と思える児童の割合は、目標値の達成を継続しています。今後も体験活動を通して他者と協働しながら豊かな心の育成や課題発見・解決学習能力の育成を図っていきます。
R5	「自分にはよいところがある」と思える児童の割合は、目標値の達成を継続しています。今後も体験活動を通して他者と協働しながら豊かな心の育成や課題発見・解決学習能力の育成を図っていきます。
R6	「自分にはよいところがある」と思える児童の割合は、目標値の達成を継続しています。今後も体験活動を通して他者と協働しながら豊かな心の育成や課題発見・解決学習能力の育成を図っていきます。
R7	「自分にはよいところがある」と思える児童の割合は、目標値の達成を継続しています。今後もさまざまな活動に主体的に取り組み、互いの良さや可能性を発揮しながら、夢や目標を実現するための力を育成します。

・評価及び対応方針

R3	今後も豊かな心の育成や課題発見・解決学習能力の育成を図っていきます。
R4	今後も豊かな心の育成や課題発見・解決学習能力の育成を図っていきます。
R5	今後も豊かな心の育成や課題発見・解決学習能力の育成を図っていきます。
R6	今後も豊かな心の育成や課題発見・解決学習能力の育成を図っていきます。
R7	今後も豊かな心の育成や健やかな体の育成を図っていきます。

6．評価と対応方針（各部評価）

・分析

（事業目標達成・未達成の要因、前年度評価を踏まえた見直し状況、新たに発生した課題・環境変化等）	
R3	小学校5年生を対象に宿泊を伴う体験活動を実施しました。 この体験活動を通して自己有用感を高め、事業目標を達成できました。
R4	小学校5年生を対象に宿泊を伴う体験活動を実施しました。 この体験活動を通して自己有用感を高め、事業目標を達成できました。
R5	3年連続して目標値を達成しました。 この結果は、「自分にはよいところがあると思える児童」を育成するために、宿泊体験活動という手法が有効であることを示しているものと考えます。
R6	4年連続して目標値を達成しました。 この結果は、「自分にはよいところがあると思える児童」を育成するために、宿泊体験活動という手法が有効であることを示しているものと考えます。
R7	5年連続して目標値を達成しました。 この結果は、「自分にはよいところがあると思える児童」を育成するために、宿泊体験活動という手法が有効であることを示しているものと考えます。

・評価及び対応方針

R3	今後も豊かな心の育成や課題発見・解決学習能力の育成を図っていきます。
R4	今後も豊かな心の育成や課題発見・解決学習能力の育成を図っていきます。
R5	自己有用感を子ども時代に経験し高めることは、生きていくうえの礎となるものであり、十分に教育効果が現れている事業であると評価します。
R6	自己有用感を子ども時代に経験し高めることは、生きていくうえの礎となるものであり、十分に教育効果が現れている事業であると評価します。
R7	自己有用感を子ども時代に経験し高めることは、生きていくうえの礎となるものであり、十分に教育効果が現れている事業であると評価します。

後期実施計画（令和３年度～令和７年度）　事務事業評価シート

１．基本情報

総合戦略	

事務事業の名称	志を育てる教育事業	事業番号	211103
担当部署名	教育委員会　　学校教育課		
政策体系			
基本目標	2 学び合い、志を育むまちづくり		
基本施策	1 「志」の教育　信頼される学校教育の確立		
単位施策	1 志を持ち未来へ挑戦する児童生徒の育成		

２．活動実績

年度	活動実績
R3	○ 小学校第6学年の児童が、自分の夢や目標、周囲の人への思いをまとめた「ドリームナビゲーション」の作成を実施しました。 ○ コロナ禍のため、「職場体験活動（キャリア・スタート・ウィーク）」は中止しました。 ○ 小・中学校の児童生徒会執行部が、一人1台端末を活用のうえオンラインで「児童生徒会議」を実施し、互いの活動について情報交換しました。 ○ 一人1台端末を活用してオンラインで各校講師をつなぎ、「志」を育てる職業講話を実施しました。
R4	○ 小学校第6学年の児童が、自分の夢や目標、周囲の人への思いをまとめた「ドリームナビゲーション」の作成を行いました。 ○ 中学校第2学年生徒を対象とした「職場体験活動（キャリア・スタート・ウィーク）」を6月に実施し、町内を中心とした事業所で「働くこと」について体験的に学びました。 ○ オンライン上で、小・中学校の児童会・生徒会執行部が互いの活動について情報交換を行いました。 ○ 中学校では、福部真子さんを講師として招聘し、夢の実現に向かい挑戦することの大切さについて教育講演会を実施しました。
R5	○ 小学校第6学年の児童が、自分の夢や目標、周囲の人への思いをまとめた「ドリームナビゲーション」の作成を行いました。 ○ 中学校第2学年生徒を対象とした「職場体験活動（キャリア・スタート・ウィーク）」を6月に実施し、町内を中心とした事業所で「働くこと」について体験的に学びました。 ○ オンライン上で、小・中学校の児童会・生徒会執行部が互いの活動について情報交換を行いました。 ○ 各学校において、様々な分野の方々を講師として招聘し、子供たちが自らの生き方を考える機会を設定しました。 事業目標について、令和4年度まで「全国・学力学習状況調査」の質問項目でしたが、令和5年度からは削除されたため、実績値の算定が不可能となりました。
R6	○ 小学校第6学年の児童が、自分の夢や目標、周囲の人への思いをまとめた「ドリームナビゲーション」の作成を行いました。 ○ 中学校第2学年生徒を対象とした「職場体験活動（キャリア・スタート・ウィーク）」を6月に実施し、町内を中心とした事業所で「働くこと」について体験的に学びました。 ○ オンライン上で、小・中学校の児童会・生徒会執行部が互いの活動について情報交換を行いました。 ○ 各学校において、様々な分野の方々を講師として招聘し、子供たちが自らの生き方を考える機会を設定しました。 事業目標について、令和4年度まで「全国学力・学習状況調査」の質問項目でしたが、令和5年度からは削除されたため、実績値の算定が不可能となりました。
R7	○ 小学校第6学年の児童が、自分の夢や目標、周囲の人への思いをまとめた「ドリームナビゲーション」の作成を行いました。 ○ 中学校第2学年生徒を対象とした「職場体験活動（キャリア・スタート・ウィーク）」を6月に実施し、町内を中心とした事業所で「働くこと」について体験的に学びました。 ○ オンライン上で、小・中学校の児童会・生徒会執行部が互いの活動について情報交換を行いました。 ○ 各学校において、様々な分野の方々を講師として招聘し、子供たちが自らの生き方を考える機会を設定しました。 事業目標について、令和4年度まで「全国学力・学習状況調査」の質問項目でしたが、令和5年度からは削除されたため、実績値の算定が不可能となりました。

３．事業目標（事業指標）

No.	指標名称	単位	区分	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
①	「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか」の質問に対し肯定的回答をした児童の割合（小学校）	%	目標値	81.0	81.0	81.0	81.0	81.0
			実績値	79.4	72.7	—	—	—
			達成状況	未達成	未達成	—	—	—
②	「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか」の質問に対し肯定的回答をした生徒の割合（中学校）	%	目標値	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0
			実績値	70.9	81.1	—	—	—
			達成状況	未達成	達成	—	—	—
③			目標値					
			実績値					
			達成状況					
④			目標値					
			実績値					
			達成状況					
指標の設定方法	夢の実現に向かい挑戦する気持ちを育てることが目的のため、「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか」の質問に対し肯定的回答をした児童生徒の割合を指標としました。							

４．コスト情報（決算）

（単位：千円）

区分	事業費合計	財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	地方債	その他	一般財源
R3	324	0	0	0	0	324
R4	481	0	0	0	0	481
R5	558	0	0	0	0	558
R6	918	0	0	0	0	918
R7	625	0	0	0	0	625
合計	2,906	0	0	0	0	2,906

5．評価と対応方針（各課評価）

・分析

（事業目標達成・未達成の要因、前年度評価を踏まえた見直し状況、新たに発生した課題・環境変化等）

R3	小・中学校ともに事業目標は未達成でしたが、一人1台端末を活用して、小・中学校の児童生徒会執行部が情報交換をしたり、各校においてオンラインで職業講話を行うなど、「新しい生活様式」の中でできる「志」の教育を進めました。
R4	ドリームナビゲーションの作成や、3年ぶりに実施したキャリア・スタート・ウィークを通して将来の展望や働くことの意義について学びました。一人1台端末を活用して、小・中学校の児童生徒会執行部が情報交換をするなど、「新しい生活様式」の中でできる「志」の教育を進めました。
R5	ドリームナビゲーションの作成や、キャリア・スタート・ウィークを通して将来の展望や働くことの意義について学びました。一人1台端末を活用して、小・中学校の児童生徒会執行部が情報交換をするなど、「志」の教育を進めました。
R6	ドリームナビゲーションの作成や、キャリア・スタート・ウィークを通して将来の展望や働くことの意義について学びました。一人1台端末を活用して、小・中学校の児童生徒会執行部が情報交換をするなど、「志」の教育を進めました。
R7	ドリームナビゲーションの作成や、キャリア・スタート・ウィークを通して将来の展望や働くことの意義について学びました。一人1台端末を活用して、小・中学校の児童生徒会執行部が情報交換をするなど、「志」の教育を進めました。

・評価及び対応方針

R3	今後も夢の実現に向かい挑戦する気持ちを育てることを進めていきます。
R4	今後も夢の実現に向かい挑戦する気持ちを育てることを進めていきます。
R5	今後も夢の実現に向かい挑戦する気持ちを育てることを進めていきます。
R6	今後も夢の実現に向かい挑戦する気持ちを育てることを進めていきます。
R7	今後も豊かな心の育成や健やかな体の育成を図っていきます。

6．評価と対応方針（各部評価）

・分析

（事業目標達成・未達成の要因、前年度評価を踏まえた見直し状況、新たに発生した課題・環境変化等）

R3	小・中学校ともに目標を達成できませんでした。 各小・中学校とも新型コロナウイルス感染症の影響を受けましたが、ICT機器の活用など可能な活動を探り、できる範囲で「志」の教育を推進しました。
R4	小学校では事業目標は未達成となりましたが、中学校では達成できました。 各小中学校とも新型コロナウイルス感染症の対策を講じながら、ICT機器の活用など可能な活動を探り「志」の教育を推進しました。
R5	新たな課題として、実績値算定不能な状況が発生しました。
R6	新たな課題として、実績値算定不能な状況が発生しました。
R7	新たな課題として、実績値算定不能な状況が発生しました。

・評価及び対応方針

R3	今後も夢の実現に向かい挑戦する気持ちを育てることを進めていきます。
R4	今後も夢の実現に向かい挑戦する気持ちを育てることを進めていきます。
R5	事業の目的は、児童生徒の夢の実現に向かい挑戦する気持ちを育てることです。 実績値は不明ですが、活動実績はいずれも当該目的に資する事業であると思われ、評価すべき事業であると考えます。
R6	事業の目的は、児童生徒の夢の実現に向かい挑戦する気持ちを育てることです。 実績値は不明ですが、活動実績はいずれも当該目的に資する事業であると思われ、評価すべき事業であると考えます。
R7	事業の目的は、児童生徒の夢の実現に向かい挑戦する気持ちを育てることです。 実績値は不明ですが、活動実績はいずれも当該目的に資する事業であると思われ、評価すべき事業であると考えます。

後期実施計画（令和３年度～令和７年度）　事務事業評価シート

１．基本情報

総合戦略：○

事務事業の名称	グローバル教育事業	事業番号	211104
担当部署名	教育委員会　　学校教育課		

政策体系

基本目標	2 学び合い、志を育むまちづくり
基本施策	1 「志」の教育　信頼される学校教育の確立
単位施策	1 志を持ち未来へ挑戦する児童生徒の育成

２．活動実績

年度	活動実績
R3	○ 外国語指導の充実を図るため、外国人講師（ALT）を全校に派遣しました。 ○ 小学校高学年における外国語の教科化に伴い、英語の指導力を備えた非常勤講師の配置を行いました。 ○ 外国語活動、外国語の指導力を向上するため、外国語教育推進担当者会を行いました。また、毎日英語に親しむ時間「ふちゅうEタイム」を小学校で設定しています。 ○ 中学校卒業時までに英語検定3級以上の取得を目指し、中学校第1・2学年で5級以上、第3学年で4級以上の検定料を年間1回助成しました。
R4	○ 外国語指導の充実を図るため、外国人講師（ALT）を全校に派遣しました。（年間213日×2人） ○ 小学校高学年における外国語の教科化に伴い、英語の指導力を備えた非常勤講師の配置を行いました。 ○ 外国語活動、外国語科の指導力を向上するため、外国語教育推進担当者会議を行いました。また、毎日英語に親しむ時間「ふちゅうEタイム」を小学校で設定し外国語教育推進担当者を中心に取組みを進めました。 ○ 中学校卒業時までに英語検定3級以上の取得を目指し、中学校第1・2学年で5級以上、第3学年で4級以上の検定料を年間1回助成しました。また、安芸府中高校の生徒が、面接官として中学生の2次試験の面接練習を実施するなど、地元高校との連携を強化しました。
R5	○ 外国語指導の充実を図るため、外国人講師（ＡＬＴ）を全校に派遣しました。（年間215日×2人） ○ 小学校高学年における外国語の教科化に伴い、英語の指導力を備えた非常勤講師の配置を行いました。 ○ 外国語活動、外国語科の指導力向上を目的として、外国語教育推進担当者会議を行いました。また、毎日英語に親しむ時間「ふちゅうＥタイム」の各校での設定、グローバルキャンプの開催など外国語教育推進担当者を中心に取組みを進めました。 ○ 中学校卒業時までに英語検定3級以上の取得を目指し、中学校第1・2学年で5級以上、第3学年で4級以上の検定料を年間1回助成しました。また、安芸府中高校の生徒が、面接官として2次試験の面接練習を実施するなど、地元高校との連携を強化しました。
R6	○ 外国語指導の充実を図るため、外国人講師（ＡＬＴ）を全校に派遣しました。（年間215日×2人） ○ 小学校高学年における外国語の教科化に伴い、英語の指導力を備えた非常勤講師の配置を行いました。 ○ 外国語活動、外国語科の指導力向上を目的として、外国語教育推進担当者会議を行いました。また、毎日英語に親しむ時間「ふちゅうＥタイム」の各校での設定、グローバルキャンプの開催など外国語教育推進担当者を中心に取組みを進めました。 ○ 中学校卒業時までに英語検定3級以上の取得を目指し、中学校第1・2学年で5級以上、第3学年で4級以上の検定料を年間1回助成しました。また、安芸府中高校の生徒が、面接官として2次試験の面接練習を実施するなど、地元高校との連携を強化しました。
R7	○ 外国語指導の充実を図るため、外国人講師（ＡＬＴ）を全校に派遣しました。（年間215日×2人） ○ 小学校高学年における外国語の教科化に伴い、英語の指導力を備えた非常勤講師の配置を行いました。 ○ 外国語活動、外国語科の指導力向上を目的として、外国語教育推進担当者会議を行いました。また、毎日英語に親しむ時間「ふちゅうＥタイム」の各校での設定、グローバルキャンプの開催など外国語教育推進担当者を中心に取組みを進めました。 ○ 中学校卒業時までに英語検定3級以上の取得を目指し、中学校第１・２学年で5級以上、第3学年で4級以上の検定料を年間1回助成しました。また、安芸府中高校の生徒が、面接官として2次試験の面接練習を実施するなど、地元高校との連携を強化しました。

３．事業目標（事業指標）

No.	指標名称	単位	区分	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
①	中学校３年生の英語検定３級以上取得率	%	目標値	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0
			実績値	36.2	36.0	36.5	36.9	40.0
			達成状況	未達成	未達成	未達成	未達成	未達成
②			目標値					
			実績値					
			達成状況					
③			目標値					
			実績値					
			達成状況					
④			目標値					
			実績値					
			達成状況					
指標の設定方法	外国語によるコミュニケーション能力の向上定着度を図ることが目的のため、英検３級以上取得率を指標としました。							

４．コスト情報（決算）

（単位：千円）

区分	事業費合計	財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	地方債	その他	一般財源
R3	14,430	0	0	0	1,085	13,345
R4	14,454	0	0	0	631	13,823
R5	14,208	0	0	0	986	13,222
R6	15,845	0	0	0	1,928	13,917
R7	17,011	0	0	0	956	16,055
合計	75,948	0	0	0	5,586	70,362

5．評価と対応方針（各課評価）

・分析

（事業目標達成・未達成の要因、前年度評価を踏まえた見直し状況、新たに発生した課題・環境変化等）	
R3	昨年度と比べ、英語検定に係る受検者人数及び3級取得率は向上しましたが、目標未達成となりました。外国語教育推進担当者会議を実施し、小・中学校での授業実践を交流したり、重点的に指導することを確認するなど外国語科の授業改善を図っています。今後、安芸府中高校とも中高連携を図り、目指す姿を意識した取組みを進めていくことで意欲の向上を図ります。
R4	昨年度と比べ、英語検定に係る受検者数は向上しましたが、目標未達成となりました。外国語教育推進担当者会議を実施し、小・中学校での授業実践を交流したり、重点的に指導することを確認するなど外国語科の授業改善を図りましたが、結果には結び付きませんでした。
R5	昨年度と比べ、英語検定に係る受検者数及び3級取得率は向上しましたが、目標未達成となりました。外国語教育推進担当者会議を実施し、小学校の研究授業を通して協議を図ったり、全国学力・学習状況調査の分析及び改善策について報告する場を設定したりして重点的に指導することを確認するなど外国語科の授業改善を図りました。
R6	昨年度と比べ、英語検定に係る受検者数及び3級取得率は向上しましたが、目標値未達成となりました。外国語教育推進担当者会議を実施し、学校の授業実践を報告したり、協議する場を設定したりして重点的に指導することを確認するなど外国語科の授業改善を図りました。
R7	昨年度と比べ、英語検定に係る受検者数及び3級取得率は向上しましたが、目標値未達成となりました。外国語教育推進担当者会議を実施し、中学校の研究授業を通して協議を図ったり、全国学力・学習状況調査を見据えＩＣＴを活用した授業改善について演習を通じて理解を深める場を設定したりして重点的に指導することを確認するなど外国語科の授業改善を図りました。

・評価及び対応方針

R3	今後もグローバル社会に挑戦する児童生徒の育成に努め、英検受検率の向上を進めます。
R4	今後、グローバルキャンプの実施や安芸府中高校との更なる中高連携を図り、目指す姿を意識した取組みを進めていき、英語によるコミュニケーションの楽しさを体験することで、英検を取得する意欲の向上を図ります。
R5	今後、グローバルキャンプの実施や安芸府中高校との更なる中高連携を図り、目指す姿を意識した取組みを進めていき、各校における外国語教育の充実を図るとともに、英語によるコミュニケーションの楽しさを体験することで、英検を取得する意欲の向上を図ります。
R6	今後、グローバルキャンプの実施や安芸府中高校との更なる中高連携を図り、目指す姿を意識した取組みを進めていき、各校における外国語教育の充実を図るとともに、英語によるコミュニケーションの楽しさを体験することで、英検を取得する意欲の向上を図ります。
R7	今後も、外国語指導助手等の配置や英語検定受験費用の助成等を通じて、児童生徒が日常的に外国語に触れる機会を確保することで、外国語によるコミュニケーション能力の向上を図ります。

6．評価と対応方針（各部評価）

・分析

（事業目標達成・未達成の要因、前年度評価を踏まえた見直し状況、新たに発生した課題・環境変化等）	
R3	目標は未達成でした。 令和2年度から小学校5・6年生では外国語が教科化されたことを受け、小学校から中学校3年生の目指す姿を意識し小中連携を強化するとともに継続的に授業改善を行っていく必要があります。
R4	事業目標は未達成となりました。 小学校では日常的に英語に触れ、英語の楽しさや発音に慣れ親しめるよう環境づくりに努めましたが、結果には結び付きませんでした。
R5	外国人講師の派遣や非常勤講師の配置、ふちゅうＥタイムの実施、グローバルキャンプの開催、安芸府中高校との連携など、目標値達成へ向けた手段は種々講じているものの、結果に結び付いていないのが現状です。
R6	外国人講師の派遣や非常勤講師の配置、ふちゅうＥタイムの実施、グローバルキャンプの開催、安芸府中高校との連携など、目標値達成へ向けた手段は種々講じているものの、結果に結び付いていないのが現状です。
R7	事業目標は未達成となりましたが、CEFR A1（英検3級）レベル相当以上を取得している生徒数の割合は県の割合を10ポイント以上上回るなど、外国人講師の派遣や非常勤講師の配置、ふちゅうＥタイムの実施、グローバルキャンプの開催、安芸府中高校との連携など、目標値達成へ向けた取組は一定の成果が見られたと捉えています。

・評価及び対応方針

R3	今後も、継続的に授業改善するとともに、安芸府中高校国際科との中高連携を図り、英検受検率及び3級以上取得率の向上に努めます。
R4	今後も、継続的に授業改善を行うとともに、小中連携及び安芸府中高校国際科との中高連携を図り、英検受検率及び3級以上取得率の向上に努めます。
R5	本事業は、外国語によるコミュニケーション能力を向上させ、定着させることを目的としており、これからの未来へ挑戦するための児童生徒には必要な取組みであると評価します。 目標値の達成を目指し、事業を継続します。
R6	本事業は、外国語によるコミュニケーション能力を向上させ、定着させることを目的としており、これからの未来へ挑戦するための児童生徒には必要な取組みであると評価します。 目標値の達成を目指し、事業を継続します。
R7	本事業は、外国語によるコミュニケーション能力を向上させ、定着させることを目的としており、これからの未来へ挑戦するための児童生徒には必要な取組みであると評価します。 今後も外国語によるコミュニケーション能力の向上に努めます。

後期実施計画（令和３年度～令和７年度）　事務事業評価シート

１．基本情報

総合戦略

事務事業の名称	学校図書館教育充実事業	事業番号	211105
担当部署名	教育委員会　　学校教育課		
政策体系			
基本目標	2 学び合い、志を育むまちづくり		
基本施策	1 「志」の教育　信頼される学校教育の確立		
単位施策	1 志を持ち未来へ挑戦する児童生徒の育成		

２．活動実績

年度	活動実績
R3	○ 豊かな感性や情操を育む読書センターの機能、児童生徒が自ら学ぶ学習・情報センターの機能を充実させることにより、図書の活用を推進しました。 ○ 学校司書を配置し、学校図書館の機能の充実を図りました。 ○ 図書システムを引き続き運用し、図書の活用を促進しました。 ○ 府中町ポップコンテストを実施し、各校において国語科と関連させながらおすすめ本のポップを作成し、優秀作品を表彰するとともに、作品を各学校や府中町立図書館で巡回展示しました。 ○ 一人1台端末を活用した町立図書館の予約や県立図書館の蔵書検索を可能にすることにより、読書推進を図りました。
R4	○ 豊かな感性や情操を育む読書センターの機能、児童生徒が自ら学ぶ学習・情報センターの機能を充実させることにより、図書の活用を推進しました。 ○ 学校司書を配置し、学校図書館の機能の充実を図りました。 ○ 図書システムを引き続き運用し、図書の活用を促進しました。 ○ 府中町ポップコンテストを実施し、各校において国語科と関連させながらおすすめ本のポップを作成し、優秀作品を表彰するとともに、作品を各学校や府中町立図書館で巡回展示しました。 ○ 一人1台端末を活用した町立図書館の予約や県立図書館の蔵書検索を可能にすることにより、読書推進を図りました。各校において、教科のねらいに合わせた読書活動を推進できるようにしました。
R5	○ 豊かな感性や情操を育む読書センターの機能、児童生徒が自ら学ぶ学習・情報センターの機能を充実させることにより、図書の活用を推進しました。 ○ 学校図書司書を配置し、学校図書館の機能の充実を図りました。 ○ 図書システムを引き続き運用し、図書の活用を促進しました。 ○ 府中町ポップコンテストを実施し、各校において国語科と関連させながらおすすめ本のポップを作成し、優秀作品を表彰するとともに、作品を各学校や府中町立図書館で巡回展示しました。 ○ 一人1台端末を活用した町立図書館の予約や県立図書館の蔵書検索を可能にすることにより、読書推進を図りました。各校において、教科のねらいに合わせた読書活動を推進できるようにしました。
R6	○ 豊かな感性や情操を育む読書センターの機能、児童生徒が自ら学ぶ学習・情報センターの機能を充実させることにより、図書の活用を推進しました。 ○ 学校図書司書を配置し、学校図書館の機能の充実を図りました。 ○ 図書システムを引き続き運用し、図書の活用を促進しました。 ○ 府中町ポップコンテストを実施し、各校において国語科と関連させながらおすすめ本のポップを作成し、優秀作品を表彰するとともに、作品を各学校や府中町立図書館で巡回展示しました。 ○ 一人1台端末を活用した町立図書館の予約や県立図書館の蔵書検索を可能にすることにより、読書推進を図りました。各校において、教科のねらいに合わせた読書活動を推進できるようにしました。
R7	○ 豊かな感性や情操を育む読書センターの機能、児童生徒が自ら学ぶ学習・情報センターの機能を充実させることにより、図書の活用を推進しました。 ○ 学校図書司書を配置し、学校図書館の機能の充実を図りました。 ○ 図書システムを引き続き運用し、図書の活用を促進しました。 ○ 府中町ポップコンテストを実施し、各校において国語科と関連させながらおすすめ本のポップを作成し、優秀作品を表彰するとともに、作品を各学校や府中町立図書館で巡回展示しました。 ○ 一人1台端末を活用した町立図書館の予約や県立図書館の蔵書検索を可能にすることにより、読書推進を図りました。各校において、教科のねらいに合わせた読書活動を推進できるようにしました。

３．事業目標（事業指標）

No.	指標名称	単位	区分	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
①	1か月に１冊も本を読まない児童の割合(小学校)	%	目標値	6.0以下	6.0以下	6.0以下	6.0以下	6.0以下
			実績値	11.1	6.2	6.8	7.9	8.4
			達成状況	未達成	未達成	未達成	未達成	未達成
②	1か月に１冊も本を読まない生徒の割合(中学校)	%	目標値	14.0以下	14.0以下	14.0以下	14.0以下	14.0以下
			実績値	12.3	8.5	22.3	23.6	20.2
			達成状況	達成	達成	未達成	未達成	未達成
③			目標値					
			実績値					
			達成状況					
④			目標値					
			実績値					
			達成状況					
指標の設定方法	図書館資料を利用することにより健全な教養を育成することが目的のため、1か月に1冊も本を読まない児童生徒の割合を指標としました。							

４．コスト情報(決算)

（単位:千円）

区分	事業費合計	財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	地方債	その他	一般財源
R3	12,922	0	0	0	0	12,922
R4	12,938	0	0	0	0	12,938
R5	13,368	0	0	0	0	13,368
R6	15,323	0	0	0	0	15,323
R7	16,310	0	0	0	0	16,310
合計	70,861	0	0	0	0	70,861

5．評価と対応方針（各課評価）

・分析

（事業目標達成・未達成の要因、前年度評価を踏まえた見直し状況、新たに発生した課題・環境変化等）	
R3	中学校では事業目標が達成、小学校では未達成でした。一人1台端末を活用して町立図書館の図書の貸し出しができるようにしたり、小・中学校で府中町ポップコンテストを実施するなど、「新しい生活様式」を踏まえてICTを活用した読書活動も実施するなど、読書への関心を高める取組みを進めました。今後も、学校、学校図書司書、町立図書館が連携した読書活動の推進に取り組んでいきます。
R4	中学校では事業目標が達成、小学校では未達成でした。一人1台端末を活用して町立図書館の図書の貸し出しができるようにし教科のねらいに応じた活用ができるようにしたり、小・中学校で府中町ポップコンテストを実施したりする等、読書への関心を高める取組みを進めました。今後も、学校、学校図書司書、町立図書館が連携した読書活動の推進に取り組んでいきます。
R5	小中学校ともに未達成でした。一人１台端末を活用して町立図書館の図書の貸し出しができるようにし教科のねらいに応じた活用ができるようにしたり、小・中学校で府中町ポップコンテストを実施したりする等、読書への関心を高める取組みを進めました。今後も、学校、学校図書司書、町立図書館が連携した読書活動の推進に取り組んでいきます。
R6	小中学校ともに未達成でした。一人１台端末を活用して町立図書館の図書の貸し出しができるようにし教科のねらいに応じた活用ができるようにしたり、小・中学校で府中町ポップコンテストを実施したりする等、読書への関心を高める取組みを進めました。今後も、学校、学校図書司書、町立図書館が連携した読書活動の推進に取り組んでいきます。
R7	小中学校ともに未達成でした。一人１台端末を活用して町立図書館の図書の貸し出しができるようにし教科のねらいに応じた活用ができるようにしたり、小・中学校で府中町ポップコンテストを実施したりする等、読書への関心を高める取組みを進めました。今後も、学校、学校図書司書、町立図書館が連携した読書活動の推進に取り組んでいきます。

・評価及び対応方針

R3	今後も図書館教育の充実に努め、読書への関心を高める取組みを進めます。
R4	今後も図書館教育の充実に努め、読書への関心を高める取組みを進めます。
R5	今後も図書館教育の充実に努め、読書への関心を高める取組みを進めます。
R6	今後も図書館教育の充実に努め、読書への関心を高める取組みを進めます。
R7	今後も図書館教育の充実に努め、夢や目標を実現するための力を育成します。

6．評価と対応方針（各部評価）

・分析

（事業目標達成・未達成の要因、前年度評価を踏まえた見直し状況、新たに発生した課題・環境変化等）	
R3	中学校では事業目標が達成、小学校では未達成でした。 各校で実施されている効果的な読書活動について、更なる情報共有が必要と考えます。
R4	中学校では事業目標を達成できましたが、小学校では昨年度より不読率は大幅に減少したものの、未達成となりました。 各学校で、継続して読書推進活動に取り組みました。今後も、学校と町立図書館の連携を進め、読書活動の推進が必要と考えます。
R5	小学校・中学校ともに目標値未達成となりました。 特に中学校については、前年度・前々年度達成であったにも関わらず、一転大幅に目標値を超過しました。コロナの５類移行が、家の中から外へという行動範囲の拡大を生じさせたことが、未達成の一要因であると推察します。
R6	小学校・中学校ともに目標値未達成となりました。 今後も、学校、学校図書司書、町立図書館が連携した読書活動の推進に取り組んでいく必要があると考えます。
R7	小学校・中学校ともに目標値未達成となりましたが、県平均を上回っています。 今後も、夢や目標を実現するための力を育成するために、学校、学校図書司書、町立図書館が連携した読書活動の推進等に取り組んでいく必要があると考えます。

・評価及び対応方針

R3	今後も図書館教育の充実に努め、読書への関心を高める取組みを進めます。
R4	今後も図書館教育の充実に努め、読書への関心を高める取組みを進めます。
R5	デジタルの時代であっても、知識の習得、教養の醸成のため、児童生徒が学校で図書を手に取り、頁をめくり、読み調べることを充実していく本事業は、継続すべきであると考えます。
R6	デジタルの時代であっても、知識の習得、教養の醸成のため、児童生徒が学校で図書を手に取り、頁をめくり、読み調べることを充実していく本事業は、継続すべきであると考えます。
R7	デジタルの時代であっても、知識の習得、教養の醸成のため、児童生徒が学校で図書を手に取り、頁をめくり、読み調べることを充実する取組は、さまざまな活動に主体的に取り組み、夢や目標を実現するための力を育成するために必要であると考えます。